

## 日本では生涯未婚率が急上昇中である

(公財)年金シニアプラン総合研究機構研究主幹 一橋大学名誉教授  
高山憲之



図1 男性の生涯未婚率は直近で2割、今後も上昇の見込み

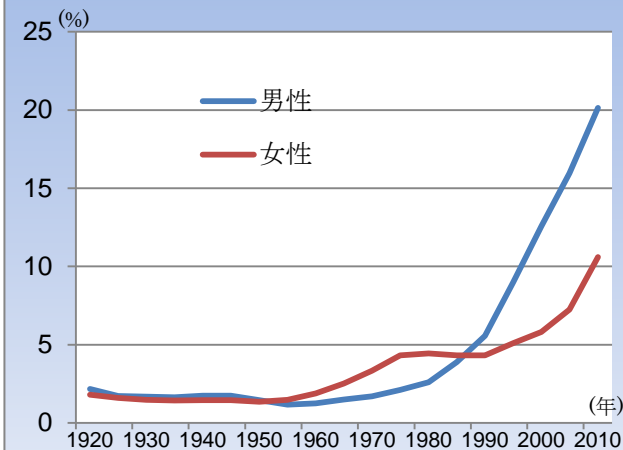
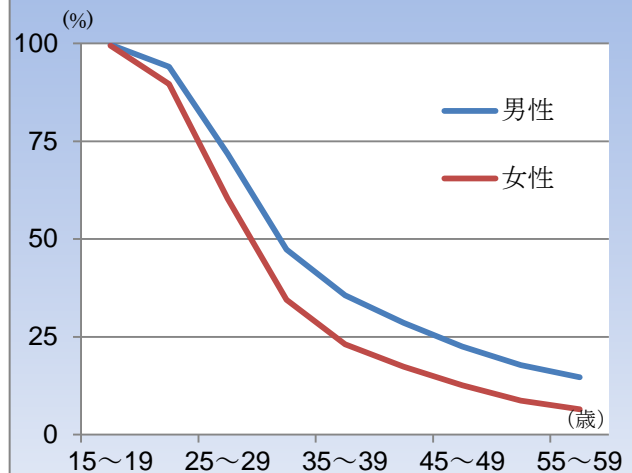


図2 年齢階層別の未婚率 (2010年)



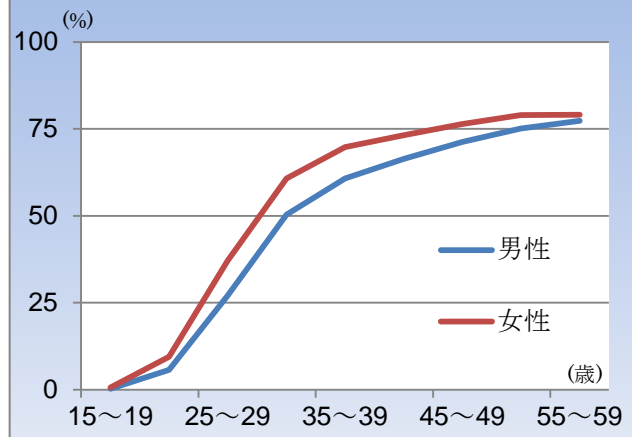
「日本は皆婚社会である」と言われていた時代が過去にあった。しかし今、結婚しない人が青壮年層で男女を問わず急増している。以下、2010年の国勢調査から算出された生涯未婚率等の計数を紹介しよう。いずれも出所は、国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集』（2013年版）である。

まず、図1は男女別にみた生涯未婚率（50歳時の未婚率）を表している。1990年代以降、生涯未婚率は急上昇しており、2010年時点において男性が20%、女性11%となっていた。1960年頃はいずれも1%台であったので、過去20年間の変化は注目に値しよう。

図2は年齢階層別にみた未婚率（2010年時点）である。直近データによると、35歳時点の未婚率は男性が41%、女性が29%となっていた。男性の4割強、女性の3割弱が35歳時点で未婚である（全国ベース）。配偶関係で先行指標となっている東京都区部のデータに限定すると、35歳時点の未婚率は男性44%、女性36%であった（2010年）。晩婚化・非婚化の動きは今後も、しばらく止まらないだろう。

図2によると、未婚率は35歳超においても加齢とともに低下していく。他方、結婚しても、その後に離婚するケースが最近では少なくない。その結果、年齢階層別に

図3 年齢階層別の有配偶率 (2010年)



みた2010年時点の有配偶率は図3のようになっていた。35歳時点に着目すると、有配偶率は男性が56%、女性65%にすぎない。

未婚率の急上昇、生涯子供なしの成人や1人暮らし世帯の増加。日本における過去20年間の家族形態の変容ぶりは凄まじい。税や社会保障制度も、この変化に適応したものに変わる必要がある。